



明治150年 米の流通に関するアーカイブ

公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

カテゴリー

生産

【資料名】 田植定規

【年代・来歴】

【寸法】 A 全長 93cm 直径 44cm B 全長 282cm 直径 40cm

【材質】 木製

【保存状態】 概ね良好

【画像A 1人用】

【画像B 3人用】



【略説明】

田植定規は、水田に苗を植える位置(印)をつける農具。水田を転がして使用する。水田の広さや作業人数によっても大きさが異なる。目印に添って手植えを行うことで、誰が行っても等間隔での移植が可能となる(正条植)。このような水田は、栽培管理がしやすく、稲の生育も向上し、収量性も高まる。

田植定規は、中井太郎(鳥取県)が明治17年に考案したとされている。

【注記】

東京農工大学農学部は、明治期初期から昭和30年代までの間に使われたさまざまな形式の畜力農機具100点あまりを収蔵しており、その資料群は産業考古学会選定「日本の産業遺産300選」に選定されている。

【所蔵機関】 東京農工大学農学部

【住所】 東京都府中市幸町3-5-8

【連絡先電話番号】 042-367-5654(農学部総務室)

【所蔵URL】 <http://www.tuat.ac.jp/>

【閲覧】 要相談